

分かる授業づくり

～よみとる算数～

御所市立名柄小学校

—わくわく・ドキドキ・みつけた！—

児童が「わくわく」しながら目を輝かせ、やってみようとする授業の設定、「ドキドキ」しながら、児童の興味・やる気が持続する授業の展開、児童自らが「みつけた！」と気付き・発見のある授業内容である「分かる授業づくり」をテーマとし、研修を深めてきた。

さらに、本校における県学力診断テスト結果の考察より、「読み取りの力が弱い」という児童の実態が明らかとなった。本年度は特に「読み取り」を重視した研修を行ってきた。そのような中で「学力調査活用アクションプラン」を推進した。

特に工夫した点は

- ・ 指導案と指導方法の研究
- ・ 職員研修の工夫
- ・ 環境づくり（人的、物的）
- ・ 研究冊子の作成（夢Ⅱ）

学校教育目標を合い言葉に！
夢と目標に向かってのびる学校

であるが、学校運営組織を改革し、部会を多く活用したことがこの事業を推進できた一つの要因であると考えられる。

「環境づくり」は、「算数ランド」と名付けて多目的ホールに領域別で量や図形などを体感できるコーナーの設営に今も取り組み続けている。他教科との関連が算数科でいわれているが、それを可能にする一つの工夫になったと思われる。



校長室で何度ももった学力推進委員会

平成19年度から組織改革で立ち上げた学力推進委員会で、全国学力・学習状況調査の結果を何度も考察し本校の課題を明らかにした。



職員会議での共通理解

それらの結果を共通理解し、時数確保の工夫をした。



名柄小
キャラクター
ひらめきみーくん

(1) 学力調査活用アクションプランを活用した取組の実際

算数科の学習指導要領の改訂において、これまでの算数的活動を見直し、工夫・改善を図ることで、児童に「算数は楽しい」「算数はおもしろい」「算数は生活に役立つ」と感じさせることが大切である。このことは、算数を学習する意義に気付かせることにつながる。

また、自分の考えを表現する活動や説明する活動も重視されている。つまり、これからの実践で求められていることは、これらの算数的活動を通して自分なりに考えたことを表現し、説明できる力を伸ばしていくことである。

そのためには「分かる」ということが重要になってくる。本校では、「授業が分かる」ということに力を入れてきた。

それには、教員が「分かる授業」を目指し、指導力を付けることが重要である。職員研修を何度も繰り返した。その基になる「児童の実態把握」いわゆる低学力になっている課題の追究をした。県学力診断テストの考察はもちろん、平成19年度から始まった全国学力・学習状況調査の分析・考察を校務分掌で3年前に立ち上げた学力推進委員会で繰り返し行い、研修部と連携し、職員会議で課題を追究した。

そして、本校では「よみとる算数」をテーマに、確かな学力の育成に「学力調査活用アクションプラン」を活用して取り組んだ。

以後、その取組を具体的に述べる。

① 「全国学力・学習状況調査」の分析から出てきた研究課題と取組の実際

自ら学ぶ子どもを育てる授業の創造

- ・「基礎・基本」の定着を図る。
- ・「分かる授業」を目指す。
- ・算数科における環境教育を推進する。
- ・算数科における「読み取り」の学習指導法の研究をする。
- ・教員の授業力の向上を目指す。

② 研究計画

- ・学校評価による課題と反省
- ・学力向上の手立て（研究授業と研修部、指導部、学力推進委員会の計画的な話し合い）
- ・具体的取組の実施（授業研修及び公表）
- ・家庭、地域との連携（インターネット、学年だより等）
- ・他教科、各部との連携（職員会議による共通理解）
- ・研修報告の伝達（その都度：印刷物等）
- ・県学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の考察を有効に利用し授業を展開する。
- ・次年度へ向けての反省と確認（成果、課題、改善・対策）

③ 学力調査活用アクションプランの実施日程

月	日	事 項
4	9	校内研修(研修年間計画についての検討1)
	14	校内研修(研修年間計画についての検討2)
6	16	校内研修 「読み取りを重視した授業づくり」 講師 校長 筒井通子
	23	校内研修(第1学年授業研究) 授業者 上段知子
	30	職員会議(学力調査活用アクションプラン推進事業についてとそれに向けてのスケジュール)
8	6	校内研修 「みんなで創る研修」(8/25)に向けて
	25	校内研修

		みんなで創る研修 A「授業で使えるパソコン」 B「実技系講習」 C「キャリア教育」
9	29	職員会議(学力調査活用アクションプラン研究推進校の研究課題・研究計画・評価に関する事項)
10	5	学力推進委員会(現状での学力の把握)
	6	学力推進委員会「全国学力・学習状況の結果を活用した調査研究」の実施計画について
	6	職員会議(学力調査活用アクションプラン研究発表会開催要項について)
	20	校内研修(第2学年授業研究) 授業者 村島 康子
	26	算数部会
11	4	学力推進委員会(問題の検討・考察)
	5	高学年部会(算数指導案について)
	5	学力推進委員会(授業者 指導案検討)
	8	学力推進委員会(学習の展開の仕方の検討)
	9	学力推進委員会(指導案について)
	9	高学年部会(算数指導案について)
	10	学力推進委員会(授業案の検討)
	10	高学年部会(県学力診断テストについて)
	12	高学年部会(算数指導案について)
	22	学力推進委員会
12	3	学力調査活用アクションプラン研究発表会 授業者 第5学年 河井 秀太



【写真1】

- ・平成19年度からの全国学力・学習状況調査の考察

【写真2】

- ・全国学力・学習状況調査の結果を考察(研修部・学力推進委員会・職員会議)

【写真1】

【写真2】

④ 授業公開・取組の経過

平成22年12月3日(金) 公開授業

第5学年 授業者 河井 秀太

「B問題を使ったよみとる算数」

ー全国学力・学習状況調査結果の考察よりー

(本校の全国学力・学習状況調査問題の正答率の低いところ)

- ・御所市立名柄小学校の取組の報告

報告者 校長 筒井 通子

- ・指導講評 県教育委員会事務局学校教育課

指導主事 椿本 剛也

- ・講演 演題「学力向上に資する言語活動の充実を目指して」

講師 奈良教育大学 教授 棚橋 尚子

ア 指導案の工夫

本時案にし、授業者の思いが見る方々に通じるようにした。

- ・授業の運びが分かる。
- ・意図や取り上げる活動のねらいが分かる。



- ・児童の活動と児童への関わり方が分かる。

イ 第5学年 算数科学習指導案（以下番号は指導案内のもの）

単元名 「伝えよう！ —自分の考えた図形を説明しよう—」

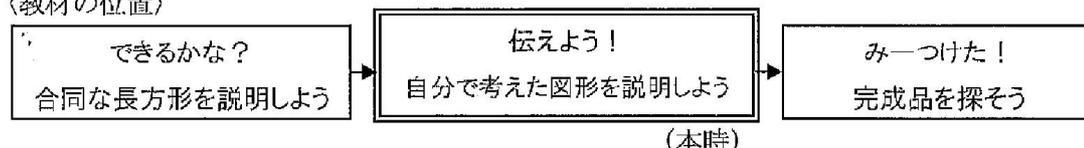
本時のねらい ・問題文から課題を読み取ることができる。

- ・図形の特徴について言葉を使って表現したり、理解したりすることができる。

本時のポイント《略》

○本時の教材について

〈教材の位置〉



〈教材の押さえどころ〉

設計図を使い本立てを構成する。残りの板を「合同」に分け、その形をみんなに分かりやすく説明することができる。

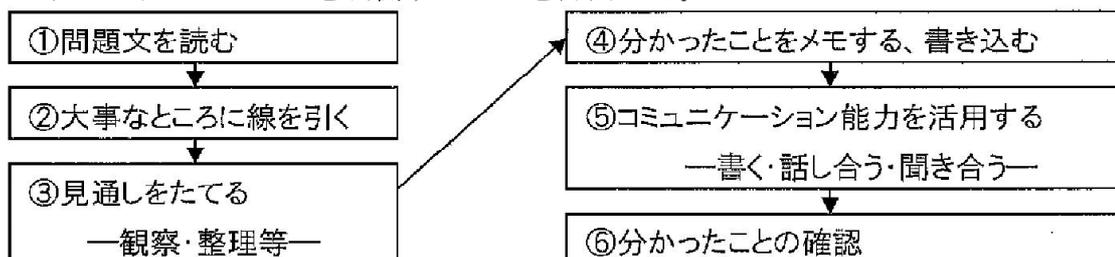
○授業の構成について

・教材へのせまり方

- ・平面（設計図）から立体（本立て）を想像しにくい児童が、活動を進めやすいように実物を用意したり実際に組み立てたりできる展開（前時）を計画している。
- ・長方形を二つの合同な形に分ける際に、既習の平面図形の知識を活用させることができ、言葉を用いて説明させることで図形の定義を深めることを期待している。

○分からせる方策

全国学力・学習状況調査の結果により、本校の児童の特徴として、B問題に代表されるような文章題の読解力や知識を活用する力が弱いという課題が出た。そのような課題に、どのように取り組んでいくかを考えたとき、平素の授業におけるスモールステップでの学習パターンが生かされることが大切であると考え、以下のようなパターンを展開することを計画した。



○工夫したこと

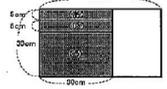
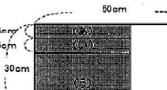
- ・自分の考えを深められるように、グループでの話し合いを用いた。
- ・グループ学習では、どの児童も活発に意見を出せるように1グループ3名とした。
- ・児童から考えられた設計図を基に完成品を用意し、自分たちの考えがどう反映されていくのかに興味をもたせるよう工夫した。

○学習集団・形態などのこと《略》

○児童への配慮《略》

○公開授業

指導案の工夫

本時の展開		指導の意図・留意点	教材教具
<p>学習活動</p> <p>・問題を読み、課題をつかむ。</p> <p>よしおさんは、図画工作の時間に本立てを作ることになりました。</p> <p>本立てを作るのに使うのは、下のような板です。この板は、たてが30cm、横が50cmの長方形です。</p> <p>長方形(あ)、(い)、(う)は、□の部分を下の図のように切って作ります。板の残りの□の部分にはあまりが出ないように切って、合同な2つの形(え)、(お)を作ります。</p> 	<p>・全体で一致し、大切なところに線を引かせる。その後、各自もう一度読み取る。</p> <p>・前時の課題と変わっているところに気付かせる。</p> <p>※1</p> <p>・前時に作った、長方形とは違う形のものを作ることと約束する。</p> <p>・合同な形は多くあることを伝え、様々な形に気付くことができるように意図付けする。</p>	<p>・掲示用問題文</p> <p>・問題プリント</p> <p>・画用紙</p> <p>・本立て(実物)</p>	<p>・グループごとに発表し、他の班の説明を聞きながら、考えを書き取る。</p> <p>・うまく書けない児童には、どこが分からないのか考えさせ、質問させる。</p> <p>・実際に他の班の発表を聞く中で、分かりにくい表現や言い方に質問させる。</p> <p>・時間がなく、途中までしか説明の仕方が分からなかった班が出た場合は、途中まで説明させる。その後、設計図を見せ、説明の続きを他の班の児童に考えさせる。</p> <p>・掲示されたホワイトボードを比べ、説明の良いところに気付かせる。</p> <p>・分かりやすかった説明は、どこが良かったのか紹介させる。</p> <p>※2</p>
<p>・グループで話し合い、本立ての側面はどうすればいいのか考える。(グループ活動)</p> 	<p>・定規や分度器、コンパスを用いて、合同な形を見つけられないか、考えるよう助言する。</p> <p>・合同にしてもいい。</p> <p>・他に変わった形はないかな。</p> <p>・コンパスは使えないかな。</p> <p>・ホワイトボードを用意し、説明を書かせる。</p> <p>・説明し合う活動を軸にするため、時間を制限する。</p> <p>※2</p>	<p>(児童)</p> <p>・ものさし</p> <p>・三角定規</p> <p>・分度器</p> <p>・コンパス</p> <p>・ホワイトボード</p>	<p>・聞き取りメモをもとに実際に設計図を描く。</p> <p>・設計図をもとにして組み立てられた本立てを見て、どの班の設計図なのかを考える。</p> <p>・実際に組み立てられたものを見て、自分たちの考えがどう反映されていくのかに興味をもたせる。</p> <p>・児童の考えをもとに作られた本立て</p>
<p>・発表のルールを確認し、発表の練習をする。</p> <p>・書いてあるだけでは分からずに説明する。</p> <p>・大きさが分かるように辺の長さや角度を使って説明する。</p> <p>・設計図を紙のたり書で梅したりしないで説明する。</p>	<p>・図形を説明する言葉(辺、角度、長さ、等しい)を使って説明すると良いことを伝える。(机間支援)</p>	<p>・ルール(掲示用)</p>	<p>・今日の学習で、分かったことを発表する。</p>  <p>・言葉や数値を使って図形を説明することの難しさが分かるとともに、普遍性や利便性にも気付かせたい。</p>

(2) 成果について

学力の向上

- ・見通しをもって課題に取りかかることができるようになり、問題解決につながった。(何を求められているのか、どう答えたらよいのか考える児童が増えた。)
- ・問題文の大切なところに線を引く習慣がついてきて題意の把握ができるようになった。
- ・答えの見積もりや、検討をつけてから計算する児童が増えてきた。
- ・算数的活動の楽しさを体感できた。
- ・筋道を立てて説明することで、自分の考えが相手に伝わることが分かり、伝えることの喜びを味わうことができ、学力の向上につながった。

指導方法の工夫改善

- ・教員の授業に対する意識のもち方が、今まで以上に研ぎ澄まされてきた。
- ・思考が深まる算数的活動を積極的に授業に取り入れるようになった。
- ・問題設定の意図や効果を考えた授業づくりを心掛けるようになった。
- ・児童の気付きや感じたことから進める学習を大切にするようになった。

学習意欲の向上

- ・児童が「分かりたい」「できるようにになりたい」と思う気持ちからか、相手の考えに質問できるようになってきた。
- ・自分の考えをみんなに分かるように説明しようと努力するようになってきた。

(3) 課題について

全ての児童が「分かる」喜びを感じるころまでは達していない。児童の理解度に差があるのも事実である。個々に応じたきめ細かい指導がどこまで深められたかという点に課題が残る。その差を縮めるために身近な内容の教材・教具を取り入れた授業の構成も考えていく必要がある。時間的制限もある中、より効果的な工夫をしていかなければならない。また日常生活に生かせる指導法の研究を継続して行うことが大切である。